

15. 権現山公園・三熊野神社・水郷北斎公園

(1) 権現山公園

「茨城百景」にも選ばれた桜（約250本）とつつじの名所です。

展望台からは北利根川沿いに広がる水郷地帯や霞ヶ浦が一望できます。冬の天気が良い日には右（北）に筑波山と左（西）に富士山を同時に見ることができ、また綺麗な夕陽も見られるビューポイントで、関東の富士見百景にも選定されています。

江戸時代には牛堀河岸のシンボルとして、大きな黒松が航行する舟の目印「山アテ」となっていました。江戸時代後期に活躍した浮世絵師である葛飾北斎の富嶽三十六景「常州牛堀」は、この下の北利根川からの風景を描いたといわれています。



権現山公園入口



公園の桜



展望台

(2) 三熊野神社

御祭神：事解之男命（コトワケノオノミコト）、速玉男命（ハヤタマオノミコト）

家津御子命（ケツミコノミコト）

三熊野神社は養老2年（718年）下総国印旛富岡の熊野神社の御分霊を東山に迎祀し、三社大権現と尊称。その後東山日吉山王神社から天和4年（1684）三熊野神社を当地に分祀しました。御神木は樹齢350年の雌樹「大銀杏」で目通り4.9m、樹高25m、地上5mから気根が垂れ下がり、8本の枝が伸び古木の風格があります。

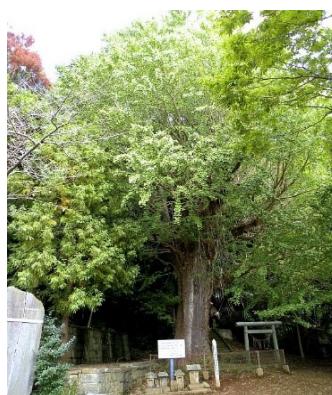
5世紀後半から6世紀初頭頃の製作と推定される埴輪武人像が「青龍大権現」として三熊野神社にあります。

幕末期の須田喜源治は柿磨と号し、常総を代表する俳人で三熊野神社の本殿の後ろに柿磨が建てた句碑が4句あります。

三熊野神社の祭礼は10月8日～10日に催行され、山車が出て賑わいます。



三熊野神社



大銀杏



埴輪武人像

(3) 水郷北斎公園

北利根川沿いに約1km続く水郷北斎公園は水辺の公園で見晴らしの良いくつろぎポイントです。葛飾北斎が描いた「常州牛堀」にちなんで名づけられました。この公園は消波ブロック上に整備されているので、釣りの絶好の場所です。ウェイクボード、水上スキー等マリンスポーツも楽しめます。毎年夏～秋に開催される水郷潮来花火大会の会場となり、迫力ある花火が間近で見られます。日本を代表する自転車道「ナショナルサイクリルルート」に選定された【つくば霞ヶ浦りんりんロード】も公園内を通っていて休憩所も近くにあります。この【つくば霞ヶ浦りんりんロード】休憩所の場所が昭和7年（1932）竣工の旧北利根橋が架かっていた場所で霞ヶ浦よりの現在地に昭和46年（1971）架け替えられるまで、そのほとりのポプラ並木とともに水郷牛堀の玄関として住民や観光客に親しまっていました。

江戸時代以前の物流は河川による舟輸送が主力で牛堀の津も繁栄しました。明治以降近代鉄道輸送路が整備されるとともに減退していきましたが、霞ヶ浦の水運が発達し、蒸気船（通運丸、銚子丸など）が通るようになると牛堀河岸が作られ水産業の問屋や、佃煮の加工業者などで賑わいを取り戻しました。

昭和4年（1929）昭和天皇の閲兵のもと水戸を中心に陸軍特別大演習が行われ、演習後、鹿島神宮に参拝のため土浦海軍航空隊を快速艇で出発。土木事務所（元村役場跡）の桟橋に上陸されました。川岸に「行幸記念」と「聖趾」の石碑が建立され、後に潮来市立図書館南西部に移設されました。



水郷北斎公園



北斎遊學館、オールアバウト蔵



りんりんロード休憩所



昭和46年竣工の北利根橋



葛飾北斎「常州牛堀」